



慢性疼痛症の治療

1943年、魚雷艇の艇長だったケネディ中尉は南太平洋で日本海軍駆逐艦「天霧」に衝突され沈没、5時間泳ぎ近くの小島にたどり着きます。退役後は坐骨神経痛の激痛に耐えて過ごしました。椎間板ヘルニアの下で手術を受けるが改善せず、さらに脊椎固定術を受けるが術後感染症になる。'55年、この絶望と痛みから解放したのがニューヨークの内科医J.トラヴェル女医でした。この腰背部痛は筋肉の慢性攣縮であると診立て、彼女の局所麻酔薬によって急速に引いたのです。

'61年、大統領になってからはホワイトハウスに招き主治医として生涯付き添うこととなります。トラヴェル博士はトリガーポイント療法の創始者だったのです。

慢性の痛みとして軟骨などの異常として椎間板ヘルニアや脊椎間狭窄、膝痛、胸郭出口症候群、肩関節周囲炎（五十肩）、手根管症候群などの病名が付けられています。検査や治療をしますが治らずドクターショッピングや硬膜外ブロック、繰り返しの手術が行われています。

実は、これらには筋局所の血流改善と中枢神経の両面からの治療が必要なのです。筋の乏血に対しては、局所に麻酔薬の少量注射（トリガーポイント・ブロック;TPB）があります。緊張性頭痛には僧帽筋、手の痺れに斜角筋、五十肩に肩甲下筋、腰痛に殿筋群、膝痛に大腿四頭筋などに局所注射を週一度 / 5回行う。その他には温湿布やマッサージ、鎮痛剤ゼリー、ストレッチー等々があります。

中枢神経に対して抗けいれん剤系（リリカ）、鎮痛剤系（トラムセット配合剤等）、抗うつ薬などが脳や脊髄内伝達抑制に作用するために使われます。近年、経皮吸収型麻薬（デュロテップパッチ）が「癌性疼痛」と共に「慢性痛症」に追加承認された。また、社会的要因として仕事・家庭のトラブルへの対応。また、慢性不眠、内臓疾患、副鼻腔炎、アレルギー等が複雑に混在していることも考慮する必要があります。注目されるものに、低温サウナの和温療法（Waon therapy）等があります。